

核兵器のない世界へ 流れをさらに大きく!

志位委員長の書簡に米政府から返書

核廃絶への「情熱うれしく思う」「

日本共産党の志位和夫委員長が核兵器廃絶にむけたイニシアチブを求めて4月末にオバマ大統領へ送った書簡に対し、アメリカ政府から返書が届きました。志位委員長の「大統領のプラハ演説についての感想」と「どうすれば私たちが最良の方法で核兵器のない世界を実現できるかについての考えを伝えた」とこの問題に対するあなたの情熱をうれしく思う」との書簡への評価が書かれています。

志位委員長は5月19日の記者会見で、「オバマ大統領が今後どういう具体的対応をとるかは、期待をもって見守りたい」「核兵器廃絶をめざす草の根の世論と運動が、世界各国で、わけても被爆国・日本でどれだけ広が

るかが、決定的に重要です。わが党はそのために全力をつくす決意です」と述べました。米政府の返書には、「具体的な前進をつくりだすために、日本政府との協力を望んでいます」

と書かれました。志位委員長はこれを受け、麻生首相、衆参両院議長などの懇談に取り組んでいます。また、党として、自治体首長や平和団体などとの懇談をすすめています。

北朝鮮の核実験強行は重大な逆流

このようなか、北朝鮮が5月25日に核実験を強行したことは、重大な逆流です。

6カ国協議共同声明(05年9月19日)にも明確に違反する暴挙である」と述べました。

志位委員長は同日記者会見し、「北朝鮮に対して『いかなる核実験または弾道ミサイルの発射もこれ以上実施しないこと』を要求した国連安保理決議一七一八(06年10月14日)や、北朝鮮が『一切の核兵器および現在の核計画を放棄』すると合意した

そして、「わが党は、北朝鮮の行動に対し、厳しく抗議する。わが党は、北朝鮮政府に対し、これ以上の核実験を厳に慎むこと、核兵器および核兵器開発計画を放棄すること、無条件で6カ国協議に復帰することを強く求める」と強調しました。



新宿駅西口で核兵器廃絶を訴える。上の写真は5月29日、大山とも子都議と。下の写真は、5月22日、笠井亮衆議院議員(比例東京ブロック)と

被爆者の方たちの思いを胸に

私は、千代田・港・新宿それぞれの被爆者の方々の話を伺う機会がありました。昨年の原水禁世界大会でも、ご家族の無念の思いを背負って、いうことをきかない自らの体にむちうって、「核戦争は二度とくり返してほしくない、戦争は人間の一切の権利をなくすもんだ」とのお話を胸に刻みました。

北朝鮮の核実験は、まさに被爆者の思い、世界の核廃絶へ向けた努力への挑戦であり、断じて許すことはできません。そして、被爆国日本を、アメリカ政権の前向きの変化を後押しして、遅れた部分にはしっかりものが言える政治に転換しなくてはと決意しています。

富田なおき

いまこそ日本共産党

有明コロシアム演説会に1万人余

5月20日、有明コロシアム(江東区)で日本共産党演説会が開かれ、1万人余の方に参加していただきました。志位委員長は、国政・都政の対決軸は「自公民か、日本共産党にある」と述べ、消費税増税を前提に選挙目当て

のばらまきに走る麻生・自公政権や、西松マナーに汚染された小沢前代表を擁護し続ける鳩山・民主党には、「政治の中身では違いがない」と強調。企業・団体献金を受け取らず、財界・大企業に正面からモノ

党の躍進を訴えました。5月29日には大企業に大盤振る舞いの14兆円の補正予算が成立しましたが、地域で対話すると、「口先だけで何が景気対策だ」と怒りの声が寄せられます。一回限りのばらまきのツケは消費税増税です。国民のくらしを守るために、なんとしても日本共産党の躍進をかちとりたいと思います。



有明コロシアムの壇上で(5月20日)



日本共産党衆議院東京1区
国政対策委員長・若者相談室長

富田なおき

事務所ニュース

21 2009.6.7

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25
TEL 03-3357-3392 FAX 03-3353-4912
E-mail:tomita-naoki@nifmail.jp

高校生の学費をもっと安く！

署名に大きな反響

新宿区では、高校生の学費負担を軽減しようと、東京都に対して3項目の署名運動（都立高校の授業料を半額に、私立高校生の授業料軽減補助の拡充、返済不要の奨学金給付金制度の創設）が取り組まれていきます。

都立高校だけで48人が経済的理由で中途退学せざるをえない事態となっています。OECD30カ国のうち26カ国は、高校の授業料は無料です。経済的理由で学ぶ権利を奪われないようにするために、運動を広げましょう。

5月17日、大山とも子都議や区議のみなさんと一緒に、区内各地でおこなわれた伝署名行動に参加。どこでも大きな反響で、一日で226筆の署名が集まりました。

都立高校の年間授業料は12万2400円、私立は初年度納付金が平均で87万円。他にも、修学旅行、教材費、制服、交通費、部活動など多額の費用がかかります。くらしがたいへんななか、昨年1年間に



神楽坂駅前



高田馬場駅前

宣伝署名行動に寄せられた声から

1年生の時、友人が授業料を払えず退学しました。日本も学費が無償になればいいと思う。
（都立高校3年・女子）

私立高校で家計が苦しく、親に申し訳ないと思いながら通っていた。高校の学費負担がなくなればいいのに。（大学1年・男子）

カナダで育ったが、高校は無償でした。日本はまちがっていると思う。（28歳・女性）

港の青年たちが食のシンポ



5月24日、港区の民青同盟が、「おおつか未来×食の未来」と題して学習会を開催しました。

おおつか未来さん（港地区雇用・福祉相談室長）が、築地市場移転問題を中心に報告。私は、輸入食品の9割が検査されずに食卓にのぼる政治、輸入だのみで自給率向上の目標をもてないような自民党中心の農政を切りかえる日本共産党の「農業改革プラン」について紹介しました。

第2部は、みんなで餃子をつくってのお食事会。参加した若いご夫婦から「日本共産党は党员が増えているんですね」など、話がはずみました。

港区で女性のつどい

党中央女性委員会事務局長の平兼悦子さんが講演。富田なおきとおおつか未来さんがあいさつ（5月30日）。



おおつか未来さんとともに

富田なおきのへのへのもへ路

都心のオアシス、日比谷公園

日比谷公園は、「年越し派遣村」で一大注目を浴びました。「鉄道の日」など、イベントの会場でもあります。

江戸時代は、佐賀・鍋島家、萩・毛利家などの上（かみ）屋敷でした。

明治期に近衛師団の練兵場をへて、1903年に日本初のドイツ式洋風近代公園として生まれ変わりました。



大小の噴水、花壇など、いかにも「都会の公園」

的な施設に加え、宮崎県から送られた埴輪など、文化財が緑の中にさりげなくおいてあるのも、おらかで不思議な心地よさを感じます。

公園の周囲には中央官庁と、金融、電力、報道などの大企業が林立しており、昼休みには、お弁当を手に労働者が集まっています。

私は、「日本をかえるネット」の青年や牛尾こうじろうさんと一緒に声をかけ、雇用アンケート

を行ってきました。その働き方は、正社員・派遣などの非正規、出入りする業者などさまざまです。そして、自分自身や友人がまともに扱われ、子育てもできる社会への要求の強さを痛切に感じました。

まさに都心のオアシスという言葉がぴったりの日比谷公園には、いま、公正な経済社会を求める変革のうねりが静かに、時に激しく巻き起こっています。



神田神保町で、牛尾こうじろうさん（千代田地区都政対策委員長）と訴える



生存権裁判・東京高裁で第2回裁判

原告団長の横井邦雄さん（左から3人目）などと一緒に宣伝し、裁判を傍聴しました（5月14日）

富田なおき事務所の法律相談

6月19日（金）午後6時30分から
富田なおき事務所にて

新宿区住吉町11-25
地下鉄都営新宿線曙橋駅から徒歩3分

弁護士が相談に応じます。
事前にお電話でご予約ください。

TEL 03-3357-3392